

運転前の点検（必ず行ってください）

本機には「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。下記をよくお読みいただき、必ず給油してからご使用ください。

1. 燃料の給油

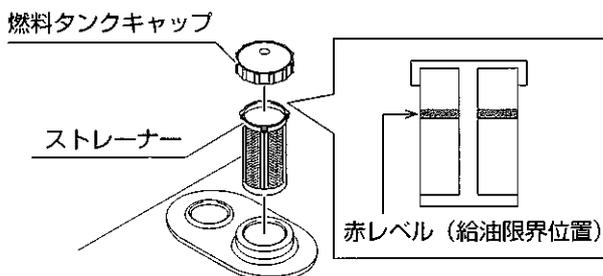
燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。

2回目以降の使用時：中にガソリンが残っていても劣化しているおそれがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。

使用燃料：無鉛ガソリン
（自動車用レギュラーガソリン）

燃料タンク容量：9.8L

燃料タンクキャップを開けたところにあるストレーナーに赤でレベル（給油限界位置）が表示してあります。レベルを超えないようにゆっくりと補給してください。レベルを超えて補給すると、燃料が漏れることがあります。



給油後は燃料タンクキャップをカチカチと音がするまで回し、確実に締め付けてください。

ゴミ混入によるエンジン不調を防ぐため、燃料はストレーナーを通して給油してください。

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。下記を必ず守ってください。

⚠ 危険

- 給油中は、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
また、身体に帯電した静電気を除去してから給油を行う

放電しないと、静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火するおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると静電気を放電することができます。

⚠ 危険

- エンジンが熱い時は給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 警告

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行う

- 古い燃料は使用しない
携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。

- 燃料をこぼさない
燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受ける
また、燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える

⚠ 注意

- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しない
エンジンなどに悪影響を与えます。

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意する

- ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用する
特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

取り扱いのポイント

- 燃料は全部無くなる前に、できるだけ早めに補給してください。

準備

操作

保守・点検

その他

運転前の点検（必ず行ってください）

2. エンジンオイルの給油

エンジンオイルを補給します。作業は本機を水平にして行ってください。

⚠注意



購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量補給する

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。オイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、オイルアラートが働き、エンジンが始動しません。



本機を傾けて給油しない

規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因となります。入れにくい場合は、別途じょうごを用意するなどして、本機の水平を保ったまま給油してください。

万が一傾けて給油した場合は、まず給油後発電機を平坦・水平で硬い場所に置いた状態でエンジンが完全に冷えたことを確認します。次にオイルプラグを取り外し、エンジンオイルが溢れない事を確認ください。溢れた場合は、きれいに拭き取ってください。

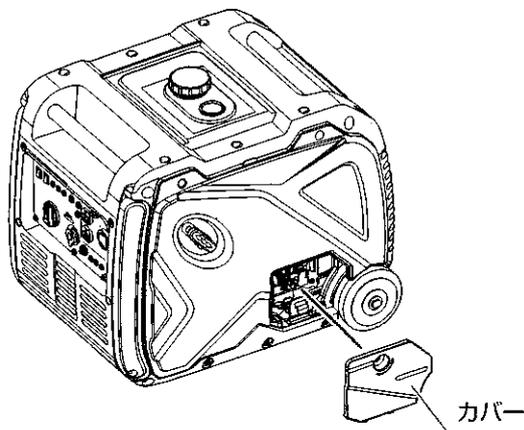


エンジンオイルを規定量以上に給油しない

入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

1) オイルプラグメンテナンスカバーを取り外す。

(9 ページ「オイルプラグメンテナンスカバー取外し方法」参照)



2) オイルプラグを外し、本機を水平にしてオイル給油口の口元まで給油する。

2 回目以降の使用時：定期点検表を参考に置き替えてください。

推奨オイル：

4 サイクル用エンジンオイル SE 級以上
SAE 10W-30

お使いの地域の平均気温が表記の範囲内（図 1）であれば、図に示された他の粘度のオイルを用いることができます。

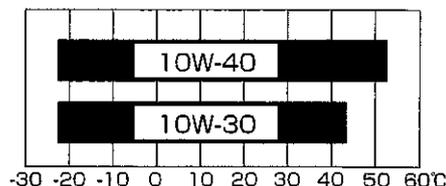
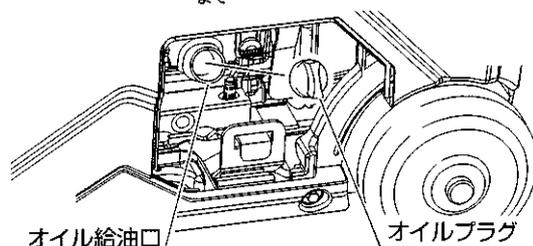


図1 周囲温度

「問題のあるエンジンオイル」（42 ページ「エンジンに関する豆知識」参照）は使用しないでください。

エンジンオイル規定量：0.55L



3) 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付ける。

4) オイルプラグメンテナンスカバーを取り付ける。

(9 ページ「オイルプラグメンテナンスカバー取外し方法」参照)

⚠注意



初回のみ、1 ヶ月後または 20 時間運転後にオイル交換を行う

交換しないとエンジンが焼き付きなどの故障を起こすおそれがあります。2 回目以降は 25 ページ「定期点検を行いましょう」に基づいて交換してください。

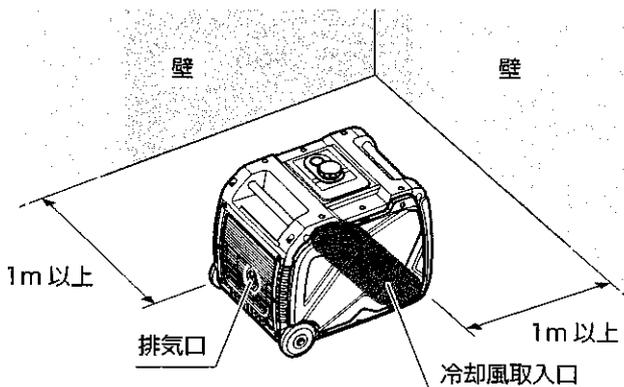
取り扱いのポイント

- ・ エンジンオイルを交換するときは 31 ページ「エンジンオイルの交換」を参照してください。
- ・ こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

運転前の点検（必ず行ってください）

3. 本機および本機周辺の点検

- ・ 燃えやすい物（特にガソリンやエンジンオイルなど）や危険物は置いていませんか。
- ・ 周囲に火の気はありませんか。
- ・ 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・ 建物および他の設置物から 1m 以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか（下図参照）。
- ・ 本機を段ボール等で囲っていませんか。
- ・ 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・ 草や泥の上に本機を設置していませんか。本機下部の冷却風取入口がふさがると、本機が故障するおそれがあります。
- ・ 傾斜地で使用していませんか。
- ・ 雨や水などが本機にかかっていませんか。



発電機（エンジン）の始動

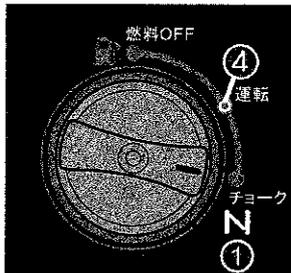
⚠警告

- ⊘ 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しない
有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。

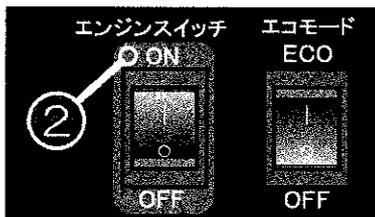
⚠注意

- ⊘ エンジンを始動する前に電気機器を接続しない

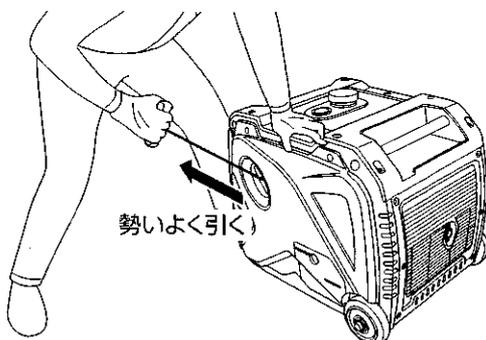
- 1) 無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検する。
- 2) 燃料コック兼チョークノブを「チョークト」にする。(①)
ただしエンジンが温まっている場合や夏期は「運転」にします。(④)



- 3) エンジンスイッチを「ON」(②)、エコモードを「OFF」にする。



- 4) リコイルスターターグリップ（以下グリップ(③)）を引いて重くなる場所を探し、重くなったところから一旦グリップを元に戻してから勢いよくグリップを引く。



- 5) エンジンが始動したらグリップをゆっくり元の位置に戻す。

⚠注意

- ❗ グリップは手を添えてゆっくりと元に戻す
始動装置や回りの部品の破損または使用者に傷害を与えるおそれがあります。

取り扱いのポイント

- ・運転中はグリップを引かないでください。エンジンが破損する原因となります。

- 6) 燃料コック兼チョークノブを「運転」の位置にして暖気運転を行う。(④)



暖気運転は下記の時間を目安に行ってください。

気温	暖気運転時間	備考
5℃以上	3分	エコモード
5℃以下	5分	「OFF」

⚠注意

- ⊘ 長時間「チョークト」で本機を運転しない
エンジンの故障の原因となります。

発電機（エンジン）の始動

エコモード（11 ページ「⑰ エコモードスイッチ」参照）使用の場合：

7) エンジンスイッチが「ON」のまま、エコモードを「ECO」にする。

取り扱いのポイント

- ・本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置でご使用ください。
特に横倒したまま運転すると、エンジンが始動しなくなるなど、エンジン故障の原因となります。
- ・排気口内にカーボンがたまりにくくするため、定期的にエコモードを「OFF」にしてエンジンを定格回転で運転してください。

電気の取り出し方

電気機器を接続する前に、必ず2ページ「安全上のご注意」の項目をよくお読みください。

⚠警告



電力会社からの電気配線には絶対に接続しない

火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

⚠注意



接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認する

電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬけがや事故を引き起こす原因となります。



引出し線又は移動配電網を用いるとき、線の全長は断面積が 1.5mm^2 の場合は60mを超えてはならず、断面積が 2.5mm^2 の場合は100mを超えてはならない



リール（巻き取りタイプ）で使用する場合は、リールに巻かれているコードを全て引き出した状態で使用する

巻いた状態で電気機器を使用すると、コードが熱を持ち、危険です。

⚠注意



機械的応力が大きいので、ゴム及び可撓ケーブル（IEC 60245-4 による）又はその同等品のみを使用することが望ましい



本機は接続された電気機器の使用状況にあわせて電圧が変化するため、電圧変化に敏感な電気機器は使用しない



接続の可否が不明確な場合は、電気機器会社に相談する



コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用する



使用時には、適用される法律や規則に従う

労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。



欠陥のある（故障などしている / 線及びプラグ接続部も含む）電気機器を接続・使用しない

交流電流（AC）

交流電源の使用できる範囲は40ページ「交流電源の使用できる範囲」を参照してください。22ページ「電気の取り出し方」冒頭の注意をお読みください。

1) 周波数切替スイッチを、使用する電気機器の周波数に合わせる。

2) アース端子を接続する。

- ・本機に接続する電気機器がアース付プラグの場合、本機も必ず接地（アース）してください。
- ・アース棒は付属していません。別途、お買い求めください。（15ページ「@アース端子」参照）

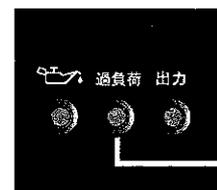
3) 「発電機（エンジン）の始動」に従ってエンジンを始動する。

（20ページ「発電機（エンジン）の始動」参照）

4) 出力ランプ（緑）が点灯していることを確認する。

始動後、過負荷警告ランプ（赤）が数秒間点灯しますが、異常ではありません。

- ・出力ランプ（緑）が点灯せず過負荷警告ランプ（赤）が点灯している場合は、出力復帰ボタンを押してリセットしてください。（13ページ「@出力復帰ボタン（交流用）」参照）



5) 交流サーキットブレーカーがONになっていることを確認する。

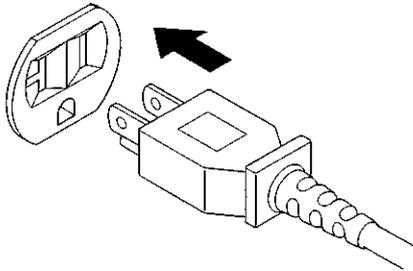
- ・交流サーキットブレーカーが作動「OFF」している場合は、交流サーキットブレーカーをONにしてください。（14ページ「@交流サーキットブレーカー」参照）

電気の取り出し方

- 6) 電気機器のスイッチが切れていることを確認し、電気機器のプラグを確実にコンセントに差し込む。

消費電流の合計が上限を超えないようにしてください。

消費電力の合計：29A 以下



7) 電気機器のスイッチを入れる

正常運転（定格負荷以下）の場合は、出力ランプ（緑）や電力使用目安が点灯します。（12 ページ「②出力ランプ（緑）」、15 ページ「②電力使用目安（交流）」参照）

過負荷運転（12 ページ「②過負荷警告ランプ（赤）」参照）や使用する電気機器が異常を起こした場合は、過負荷警告ランプ（赤）が点灯し続け、電気が取り出せなくなります。その場合は、接続している電気機器を取り外し、出力復帰ボタンを押して出力ランプ（緑）が点灯することを確認してください。

直流電源（DC 12V/8A・シガーソケット）

22 ページ「電気の取り出し方」冒頭の注意をお読みください。

⚠注意

- ！ 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合の交流（AC）機器の消費電力は、下記の範囲を守る

50/60Hz…2,800W

- ！ 直流電源で使用する場合は、電圧 12V、始動電流が 8A 以下の電気機器であることを確認して接続する

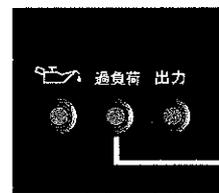
取り扱いのポイント

- ・シガーソケット（直流）使用時にはエコモードを「OFF」にしてください。

- 1) 20 ページ「発電機（エンジン）の始動」に従ってエンジンを始動する。

- 2) 数秒後、出力ランプ（緑）が点灯していることを確認する。

出力ランプ（緑）が点灯せず過負荷警告ランプ（赤）が点灯している場合は、エンジンを一旦停止させてから、エンジンを再始動させてください。（12 ページ「②過負荷警告ランプ（赤）」参照）



- 3) 電気機器のスイッチが切れていることを確認し、プラグをシガーソケットに差し込む。

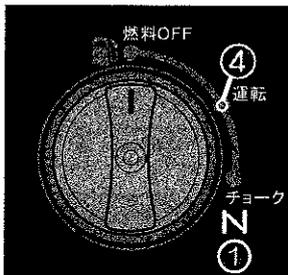
取り扱いのポイント

- ・シガーソケットから電気を取り出しすぎると、直流出力復帰ボタンが「OFF」になり、電気が取り出せなくなります。（15 ページ「②直流出力復帰ボタン」参照）

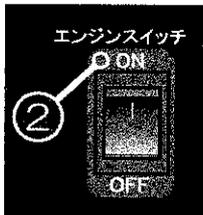
発電機（エンジン）の停止

通常停止

- 1) 電気機器のスイッチを切る。
- 2) プラグをコンセントから抜く。
- 3) エコモードスイッチが「ECO」の場合、「OFF」にする。
- 4) 燃料コック兼チョークノブを「燃料 OFF」の位置にする。



- 5) エンジンスイッチを「OFF」にする。



⚠危険

- ❗ 燃料漏れを防ぐため燃料コック兼チョークノブは必ず「燃料 OFF」の位置にする

「チョーク N」または「運転」の位置だと燃料がこぼれ、引火する原因となります。

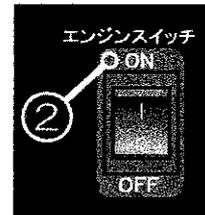
通常停止後、しばらく使用しないとき

本機をしばらく（一週間目安）使用しないときは下記のようにすることでエンジンの故障（キャブレター詰まり）が起こりにくくなります。

- 1) 「通常停止」の1) から4) を行う。
- 2) エンジン停止まで待つ。（約2分間）

上記時間経過後も運転を続ける場合は ECO モードが「OFF」になっているか確認してください。「OFF」になっていても運転を続ける場合は、燃料コック兼チョークノブが「燃料 OFF」にきちんと合わせきっていない、または故障している可能性があります。

- 3) エンジンが止まったら、エンジンスイッチを「OFF」にする。



⚠危険

- ❗ 燃料漏れを防ぐため燃料コック兼チョークノブは必ず「燃料 OFF」の位置にする

「チョーク N」または「運転」の位置だと燃料がこぼれ、引火する原因となります。